

平成 27 年度に事後評価を行った評価結果（概要）について

1. 計画の指標の達成状況は次のとおりとなっている。

評価対象計画数	計画に掲げる指標をすべて達成した計画数	指標の達成が 100% 未満のものがあった計画数
2	0	2

2. 計画に掲げる指標をすべて達成した地区の、本計画に取り組んだ効果として、次のような実績があった。

(1) 農村の振興

・該当なし。

(2) グリーン・ツーリズム、都市農業の振興

・該当なし。

(3) 農業生産基盤の整備

・該当なし。

(4) 中山間地域等の振興

・該当なし。

3. 指標の達成が100%未満のものは次のとおりであった。

評価対象計画数	指標の達成が100%未満のものがあった計画数	うち指標の達成が70%未満のものがあった計画数	うち指標の達成が50%未満のものがあった計画数
2	2	1	0

4. 指標の達成が未達成となった主な要因としては、次のような事例があった。

(1) 農村の振興

- ・該当なし。

(2) グリーン・ツーリズム、都市農業の振興

- ・都市との交流による農村の活性化を目指しており、農家民宿及び宿泊施設の宿泊者数について、出雲歌舞伎や神楽の公演、須佐神社や八雲風穴など周辺観光施設と連携したツアーを行っているが伸び悩んでいる。一方で、ジビエ料理体験メニューの充実等により日帰り客は大幅に増加しているため、日帰り客にも宿泊客として再訪してもらえるように体験メニューの再構築、利用者ニーズの把握等により宿泊者数の増加に努める。

また、産直市については高齢化により産直会員の減少に歯止めがかからない状況ではあるが、新規会員の確保に努めつつ、観光客のニーズに合った品目の開発、多品目販売の維持に取り組み、集客増を図っていく。

(3) 農業生産基盤の整備

- ・該当なし。

(4) 中山間地域等の振興

- ・新技術の導入により地域資源を活かした農山漁村の振興を目指しているが、主力商品である養殖いわがきが原材料の確保が十分にできなかったために安定供給ができなかったことや、白いかについて、在庫により販売額の落ち込みはなかったものの、不漁により仕入量が大幅に落ち込んだため販路拡大を躊躇したことから、目標の達成が困難となった。販売額は徐々に増加しているが、今後は安定的な原材料確保のため、養殖業者、漁業者とさらに連携体制を整えていきたい。また、取引先との連携を密にし、魅力的な新商品の開発や販売体制のさらなる強化などの取り組みにより、目標の達成を目指す。

5. 指標の達成が未達成となった計画については、今年度指標が未達成となった要因等を分析するとともに、「改善計画」を作成し、農政局の指導のもと、県・市町村が連携し、指標達成に向け取り組んでいる。